令和３年度予算案について

～豊かな大阪の実現に向けて～

令和３年２月

大阪市長　松井　一郎

１．令和３年度市政運営の基本方針

令和３年度市政運営の基本方針

豊かな大阪をめざした政策推進

市民の暮らしの満足度向上をめざした市政改革

新たな自治の仕組みの構築

２．令和３年度予算の姿

予算編成方針

予算編成の原則

補填財源に依存することなく収入の範囲内で予算を組むことを原則とするなど、将来世代に負担を先送りすることのないよう、財政健全化に着実かつ積極的に取り組むとともに、限られた財源のなかで一層の選択と集中を全市的に進める

予算の概要

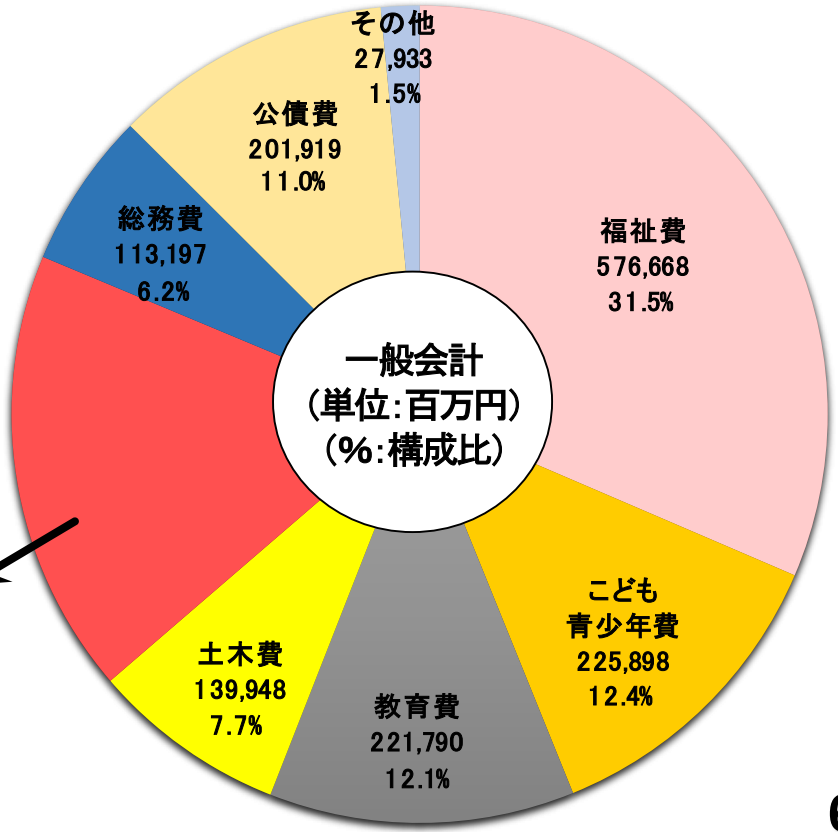
令和3年度当初予算

○ 予算総額：3兆5，398億円
（対前年度比　＋2．6%　＋911億円）

○ うち一般会計：1兆8，301億円
（対前年度比　＋3．4%　＋601億円）

内　訳	予算額	構成比
健　康　費	94,368	5.2%
経済戦略費	51,309	2.8%
住　宅　費	48,683	2.7%
消　防　費	39,187	2.1%
環　境　費	35,317	1.9%
港　湾　費	30,745	1.7%
大　学　費	20,658	1.1%
議　会　費	2,483	0.1%

目的別歳出予算



予算の姿

豊かな大阪をめざした政策推進

■ ウィズコロナにおける対策と大阪の再生
- 新型コロナウイルス感染拡大防止対策の充実
- 市民サービスの充実
  （子育て・教育環境、福祉等の向上、区施策の展開）
- 大阪経済の再生

■ ポストコロナに向けた府市一体による大阪の成長
- 経済成長に向けた戦略の実行
- 都市インフラの充実
- 防災力の強化
- 成長産業の育成

市民の暮らしの満足度向上をめざした市政改革

■ ICTを活用した市民サービス向上

■ 官民連携の推進

■ 効果的・効率的な行財政運営

■ ニア・イズ・ベターの徹底

■ 人材育成・職場力の向上

■ 働き方改革

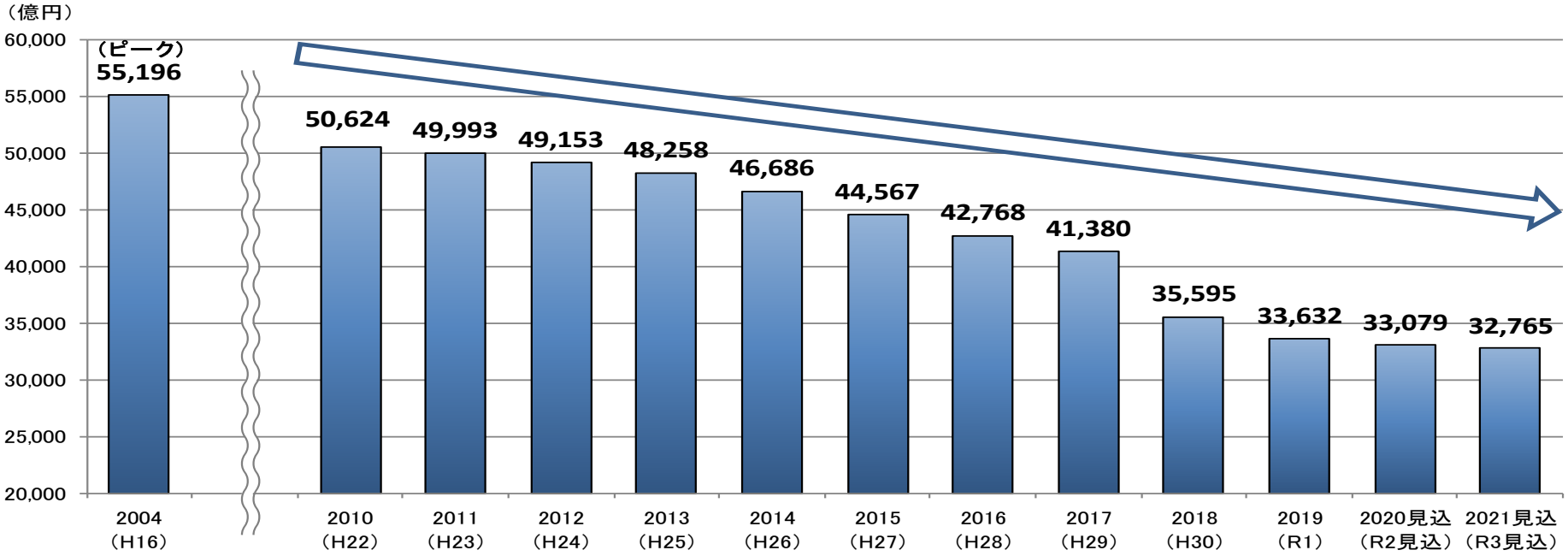
■ 府市連携・一元化の推進

財政健全化を着実に推進

市債残高の着実な縮減などに取り組むとともに
通常収支の状況を踏まえた予算を編成
［通常収支の状況　△228億円の不足］

将来にわたり活気ある豊かな大阪をめざす

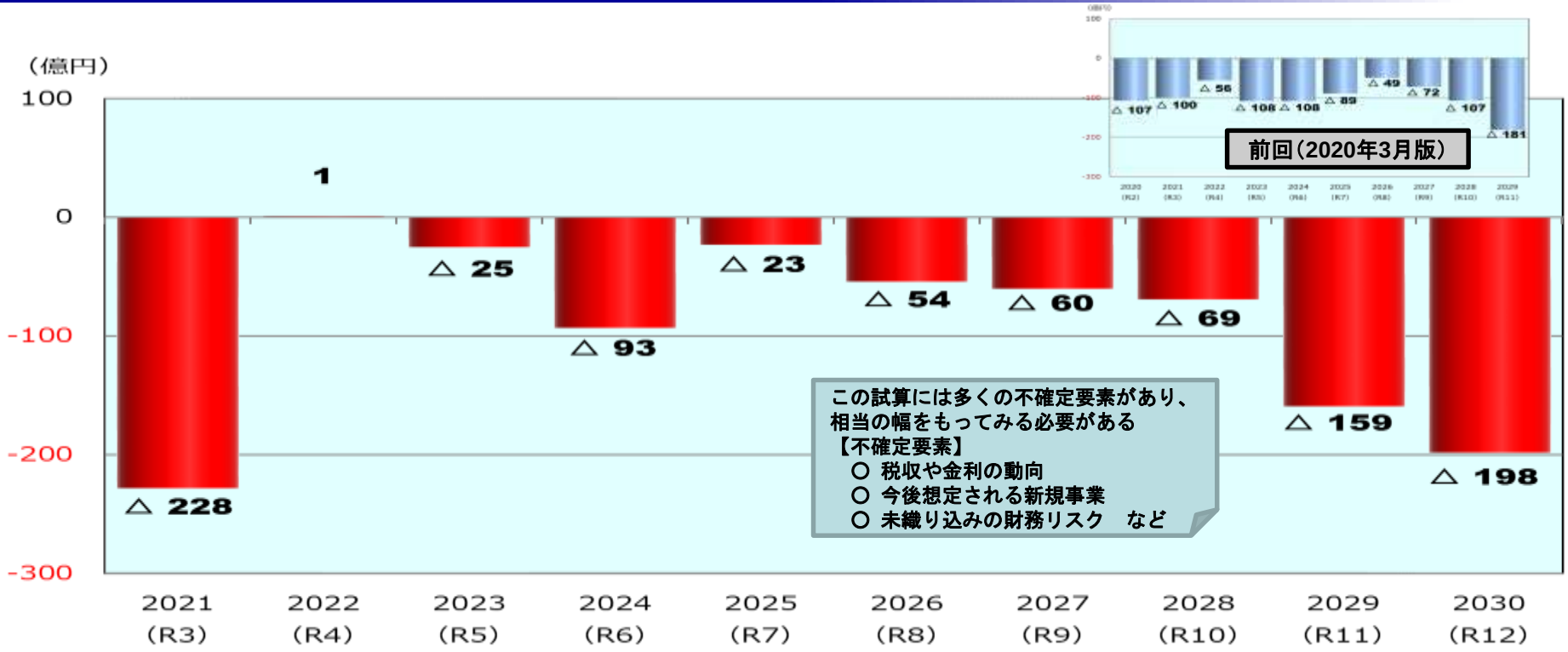
予算の姿（市債残高の推移）



➢ 全会計ベースは17年連続して対前年度比較で減

（※ 一般会計ベースは8年連続して対前年度比較で減
後年度に地方交付税で全額措置される臨時財政対策債を除くと17年連続して対前年度比較で減）

今後の財政収支概算（粗い試算）



○　通常収支（単年度）の均衡に向けて引き続き市政改革に取り組むとともに、全市的な優先順位付けを行うなど、事業の選択と集中を進めることで、補填財源に依存せず、収入の範囲内で予算を組むことをめざし、持続可能な財政構造の構築を図る必要がある

＜参考＞財政の状況（主要な財政指標）

令和元年度決算	経常収支比率	実質公債費比率	将来負担比率	財政調整基金残高
大阪市	過去最大値 (H16：103.6%) ↓ 93.4%	過去最大値 (H19：11.8%) ↓ 3.2%	過去最大値 (H19：263.8%) ↓ 21.2%	※R2年度末見込 1,438億円 1,616億円
横浜市	101.2%	10.2%	140.4%	80億円
名古屋市	99.6%	8.2%	104.8%	125億円
京都市	98.9%	10.4%	191.1%	― 億円
神戸市	99.3%	4.6%	66.1%	115億円

これまでの市政改革（市債残高及び人件費削減など）の取組みにより、

経常収支比率などの財政指標は、着実に改善